



プレイセンターにじっこ活動報告書

親も子も地域も育つ！
子育てが楽しくなる居場所

2024年4月～2025年3月



認定 NPO 法人 子どもと文化のひろば

ぶれいおん・とかち

令和6年度キリン・地域のちから応援事業

公益財団法人
キリン福祉財団
The KIRIN Welfare Foundation

1. はじめに



家事や育児のほとんどを一人で担うワンオペ、自分が生まれ育った地域以外でのアウェー育児に加え、そもそも赤ちゃんを抱っこしたこともない！

そんな子育て世代を励まし、支え合って、「子どもと一緒に育ち合って親になっていくプロセスがどんなに尊く価値ある仕事か」共感し合いたい。プレイセンターの運営には、そんな切なる願いが込められています。

ひとりでは子育てはできない。

子どもも大人もひとりひとりみんな違ってみんな良い！

お互いを認め合って、いっぱい遊んで、いっぱい学ぶ。

いつしか苦しかった子育てが楽しくなって、誰かのことを思いやれるやさしい気持ちが芽生えてる。

ひとりで立って、歩いて、ご飯を食べて、トイレにも行けるようになって。はじめからお友だちと仲良くなんてできっこない。

そんな緊張感のある毎日を共に過ごし、育ち合えた仲間は、一生の宝もの。春にまたひとつ大きくなっても、ずっとつながりあっていきたいね。

理事長 今村 江穂



2. 事業概要

プレイセンターは、“家族が一緒に成長する”という理念のもと、ニュージーランドで60年以上の歴史を持つ「親たちによる幼児教育の活動」。子どもも親も楽しみながら共に成長していくことを目指し、0歳から就学前までの子どもに「自分で選ぶあそび」を、親に「親のための学習」を提供し、子どもと親の両方を支援する。

■ あそび

“あそび”という言葉を、プレイセンターでは子どものあらゆる自発的な活動を指す言葉として使っている。子どもはあそびを通じて、感情や想像力を発達させ、言葉を覚え、友達を作り、世界について学ぶ。プレイセンターでは、子ども自身がやりたい時にやりたいあそびを選ぶことができる。

■ 親のための学習

親がプレイセンターの理念を学び、子どもたちのあそびをサポートするために必要な知識や方法を身につける。誰もがみんなに役立つ何かを持っているという考えに基づき、お互いの経験や感情を持ちよる、参加・協力・実践型の学び合いの場である。

■ 協働運営

プレイセンターは親たちによって運営されるが無理なく楽しく進められるよう、子育ち親育ちに関する専門知識を学んだスーパーバイザーがサポートする。参加するすべての人が協力し合い、みんなで場づくりに関わることを目指している。

プレイセンターにじっこ

日 時：毎週水・金曜日
10:00 ~13:30

会 場：ふれいおん・とかち
帯広の森・はぐくーむ、他

対 象：未就学児の親子（会員制）

月会費：1,100円

※ふれいおん・とかち正会員費として

2024年4月～2025年3月実績

○セッション回数：98回

○参 加 者 数：延べ 1,314人

【遊びセッション】

サポーター支援のもと、親が子どもの遊び環境を整え、一緒に遊び、また子どもたちの様子を観察する。終了後にはヒヤリハットがなかったか、大人や子どもの関わりで良かったことなどふり返りを行う。遊びコーナーの1つに寒天、絵の具、小麦粘土、お花紙を使った遊びなど家でやるには少しハードルの高い遊びを取り入れた。また月に2回、帯広の森・はぐくーむ周辺の森で遊ぶ日も、今年度も継続して設けた。雪がたくさん降った2月は、積雪により、ふれいおんの駐車場スペースに余裕がなくなったことから森での活動を多く行った。



— にじっこ「遊び」に関する参加者の声 —

- ・家庭ではできない絵の具や粘土など汚れる遊びもサポーターや他のママたちのお陰で思う存分できる。見守り方や声のかけ方、自分の子だけ見ている必要はないんだよと教えて頂いた。
- ・印象に残っていること：家ではあまりしない小麦粉粘土、絵の具、工作など自由に出来ること。遊びを通して子どもの成長に気づきメンバーで共感し合えたこと。学んだこと：子どもと一緒にあって遊ぶ楽しさと大切さ。気づいたこと：我が子以外とも遊べて、毎回自分が癒やされていること。森の中では母も子もいろんな発見やいいリフレッシュができていること。

- 遊びが子どもだけでなく、大人にも楽しく、学びを与えてくれることに気づかされた。同じく考える仲間、相談できる環境がとてもありがたかった。
 - ソポーター会議での決定事項を聞くことが多いのですが、可能な範囲で決定する前の時点で内容をシェアしていただけすると、よりプレイセンターを協働する仲間として、多彩な取り組みや方針、今いるメンバーで大切にしたいことなどを共有することができるのではないかと思います。もちろん、議論に参加する人数が増えると決定が遅れる等デメリットもあると思いますので、可能な範囲で。
 - 小麦粉粘土や、色水など家では毎回できないような遊びができる環境が良かったです。
 - 子どもだけの学びではなく、親の学びもしっかりあるのがすごく印象に残っています。
 - 2月に大雪が降って、にじっここの活動がほぼ森での活動になりましたが、雪に触れ合える機会が増えて結果よかったですと思いました。日月さんが冬のお散歩の時に話してくれたように、「雪は最強！」で、行く方角だけ決めれば、どこにでも散歩できる、歩くのを嫌がった子もソリがあれば前に進める！雪だるまや雪でケーキを作つてそれ楽しんでいた。大人もスノーシューを借りたり、大きなソリで子どもと一緒に引っ張ってもらったり。今日は何ができるかな？とワクワク！毎回森に行くのが楽しみになっていました。
 - 家の中でやってはいけないこと、しつけとして伝えなくてはいけないことがたくさんあり、自由にのびのび遊ばせてあげられないのもどかしく感じることもありました。その中にじっこに出会い、家でできることやさせたくないことを全て自由にできる場所であることに感動しました。自由に遊べることで子どもたちの中での想像力が広がったり、周りのお友達の行動を見て真似してみたり、遊びの幅が広がったなと感じています。
 - 自分は不参加だったけど、小雨の中カッパを着て森歩きをしている様子を後日写真で見て晴れた日とはまた違う発見が出来そうでいいなと思いました。多少の雨なら中止にせずに状況を見ながら活動を決行するのは素敵だな。にじっこならではだなと思っています。
 - にじっこのお友だちを認識して、にじっこでみんなと遊ぶのを楽しそうにしていること。家でも「〇〇ちゃんと遊んだの楽しかった」とかつぶやいていたり。
 - 家と違うおもちゃ、他の大人から見た我が子の得意を知ることができる。子育て情報、考え方の幅が広がり、安心できる。
 - 春夏秋冬、四季折々の遊びを体験できる。特に秋の遊びが印象に残っており、紅葉や葉が散る美しさを子どもと一緒に見たり、落ち葉遊びや木の実広いなど幅広く遊べたことが楽しかった。
 - 子どもたちやそのときの状況にあわせて柔軟に活動を変えたり、親も楽しむことを大切に活動がされていると思いました。
 - 大人も積極的に遊びに参加していてみんなで楽しんでました！かなさんの回、参加したかったです！
- (遠方会員)



【親のための学び合い】

月に一度、センター支援のもと、プレイセンター協会発行のテキストを使ったり、それ以外のテーマを選んで、子育てやプレイセンター運営に必要なことを学ぶ時間を設けている。プレイセンターでの学び合いの特徴は、先生がいないこと。参加者 1 人 1 人が語るディスカッション形式で、仲間の話に耳を傾けることで色々な視点や価値観、考え方を学び、視野を広げている。学びに集中できるよう、基本的には母子分離をし、2つのグループに分けて託児と学び合い（30～40分程度）を交代して行っている。

月	内容	担当センター	参加組・人
4月	ラーニングストーリー（実習）	宮田真理子	10組 21人
5月	センター運営に必要な実践的理 解 (テキスト)	宮田真理子	6組 12人
6月	子どもの観察実習	宮田真理子	6組 12人
7月	救命救急講座（外部講師）	宮田真理子	7組 14人
8月	リーダーシップについて（テキスト）	宮田真理子	4組 7人
9月	プレイセンターの理念（テキスト）	宮田真理子	8組 16人
10月	子どもの権利	宮田真理子	4組 9人
11月	プレイセンターのあそび	織田麻衣子	7組 14人
12月	—		
1月	あそびのワークショップ with カナさん (実習)	宮田真理子	11組 25人
2月	子どもの観察実習 in 森	宮田真理子	6組 13人
3月	森の散歩について	能登綾香	6組 13人
合計			11回延べ 156人



日本プレイセンター協会のテキスト



— 親の学び合い、松岡先生の相談会、講演会に関する参加者の声 —

- ・学び合い、とても貴重な場だと思っています。にじっこに出会うまで子育てやあそびを学ぶという考え方方がなかった。子どもたちの発達や成長をみんなで学ぶ、見守っている感じがとても素敵だと思います。
- ・真面目な話をゆっくりとできる、貴重な時間です。自分のことを知る事が出来ます。他メンバーの考えを聞けるのも、とても勉強になるし、信頼感が増します。
- ・にじっこで「絶対に参加したい！」と思っている1つが学び合いの日です。参加するといつも新たな気づきがあったり、忙しい日々で忘れ去られていた子どもの大切なことを思い出させてくれたり。子育てしていくてもいくつになっても、学ぶことって楽しいなと思っています。印象に残っているのは「子どもの権利」で、ボーッとする余暇の時間も大切にしなければならないことを初めて知りました！また、学びの場でいつも子育てを共に頑張っている仲間のママさんが知識が豊富で、新たな一面が知れ、自分の視野も広がりありがたかったです。唯一、子どもと離れて自分の時間が持てることも、相互保育で自分の子が他の人に遊んでもらっていたり、自分が他の子の遊び相手をするということも、普段の生活ではなかなか経験できないので、新たな発見がありましたり、子どもの成長を感じられたり。いつもとても深くて充実した時間を過ごせています。
- ・学び合い：テキストから学んだり、他のメンバーの意見を聞いたりすることで色々と勉強になった。松岡先生相談会：きっぱりアドバイスをくれるので、毎回ウジウジ悩んでないで前を向こう！！と思えた。他のメンバーの相談事が、我が子に当てはまる事も多く参考になった。お会いできたのは数回でしたが本当に救われました♡最後の2月14日は体験入園と重なり不参加なのが残念です。中谷さんの講演会：これから子育てしていく自分にとって聞いておけて良かった！と思える講演会だった。学んだことを日々の生活に生かそうとするも、つい忘れてしまうことも多いので、思い出す意味でもまた講演会があれば参加したいです。
- ・月に1度、学び合いを通してママたちとゆっくり話して、考えていることを共有できることが嬉しいし、樂しみです。松岡先生の相談は、今現在の困りごとを聞いてもらって、すぐにアドバイスをもらえるのがとても助けになっているし、自分以外の相談も聞けるので勉強になっています。講演会は、毎回勉強になることばかりで、今の子育ての悩みよりもっと先（思春期など）のことも想像しながらいつも勉強させてもらっています。
- ・松岡先生が、「お腹が空いたら食べるよ」と食事の時間に落ち着かない息子の相談したときの言葉。ふっと肩の荷がありました。他の方の話を聞くのも、学びが大きい。
- ・松岡先生の相談会では、自分自身の悩みを解決する場であると同時に、他のメンバーの悩みを聞く時間もまた学びになっています。貴重な機会をありがとうございます。
- ・講師の方々からのアドバイスはもちろんですが、信頼できる仲間の前だからこそ本音や悩みを聞き合えて「他のママも同じような壁にぶつかっているんだな」と他の方の相談内容を側で聞けるありがたさもあります。
- ・松岡先生相談会では、他の子の悩みやアドバイスを聞き、仕方ないではなく、解決の道があると知れる。

- ・普段育児でモヤモヤしている疑問や不安を相談することができ、母親目線で寄り添ってくれるので話しやすく、話を聞いてもらえて嬉しかったです。又他のお母さんの話を聞くのも自分と重ねて聞くことができたりとすごく貴重な時間でした。
 - ・まだ参加したことないです。
 - ・まだ学び合いも相談会も講演会も行ったことがありません。
 - ・今年度は、学び合いや講習会など参加出来ませんでしたが普段何かと中断されがちな日常を送る母にとって、その時間に集中できる時間ってとても価値があるなあと思います。
-

●10月の学び合い「子どもの権利」

ユニセフの「子どもの権利カード」を使って、実際の条文ではどんな権利が書かれているのか読み上げて、それが **・生きる権利　・育つ権利　・守られる権利　・参加する権利** の4つのうちどの権利に該当すると思うか考えて置いていく、というワークをした。最後に、自分が一番気になった権利カードを選び、理由を語り、聞き合った。 <選んだカード> ↓

第38条 [戦争からの保護]

国は、15歳にならない子どもを軍隊に参加させないようにします。また、戦争にまきこまれた子どもを守るために、できることはすべてしなければなりません。

いま、世界が不安定。ウクライナ、ガザ、あちこちで戦争が起きていて、子どもたちが殺されています。子どもたちのことを一体誰が守ってくれるの? と思う。国が子どもの権利条約を批准していても守ってもらえないのか? 国連団体も動いてくれないのか? ただただ、子どもが守られないと、と思う…。

第31条 [休み、遊ぶ権利]

子どもは、やすらぎしたり、遊びたり、文化芸術活動に参加したりする権利をもっています。

いま、子育てでは「与える」とか「色々させる」ことに重きをおきがちだけど、「休む」権利もあるんだなあというのが心に留まった。文化芸術活動も、子どもにとって大切なんだなあ。ぶれいおんで観る人形劇とか積極的に参加させたい。「幼稚園休みみたい、行きたくない」という時があるけど、それも権利なのかな? ?

第12条 [意見を表す権利]

子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。

まずは聞く、を考えなきゃと思った。圧迫してると子どもは意見を言えなくなるだろう。こっちの話だけじゃなく、話しやすい環境を作ることを考えないと。自分の好きなようにイヤダ、とか、これがいい、とか、気持ちを表現できるように。そういう環境を作りたい。

第17条 [適切な情報の入手]

子どもは、自分の成長に役立つ多くの情報を手に入れる権利をもっています。国は、本、新聞、テレビ、インターネットなどで、子どものためになる情報が多く提供されるようになります、子どもによくない情報から子どもを守らなければなりません。

YouTubeで世界一コカコーラが飲まれている町のことを見た。2才からミルク代わりに飲ませ、大人は1日平均2L。みんな糖尿病…。その町にはコカコーラの大きな工場がありどこに行ってもコーラの看板があり常にプロモーションされている。背景にはアメリカの食品会社によるマーケティング戦略があり、幼い時から触れ、生涯消費するように、と、子どもがターゲットにされている。これを見て恐ろしくなった。情報は操作されるから、自分が色々なものを見て、なんでも鵜呑みにせず、子どもにも伝えていかないといけない、と感じている。

●1月の学び合い「あそびのワークショップ」

プレイセンター発祥の地であるニュージーランドでスーパーバイザーとスーパーバイザーの育成もしている“カナさん”来日のタイミングに合わせて、ワークショップを実施した。あらかじめ、①廃材あそび＆工作コーナー、②運動あそびコーナー、③おままごと＆机上あそびコーナーの3つのエリア担当に分け、チームで相談して遊び場の準備をした。大人はチームごとに動く（子どもは自由）というルールで、各エリアを20分ごとに回って子どもたちと遊んだ。カナさんにその様子を見てもらい、子どもたちのあそびが、より楽しく豊かに発展するよう、大人はどんな関わり方をしたらよいか、たくさんアドバイスをいただいた。



<参加者の感想より>

「カナさんから“大人は遊びの火付け役、大人がきっかけを作つてあげればあとは子どもが発展させてくれる”、“子ども遊ばせるのではなく、一緒に遊ぶのが大事”と教わりました」「普段より少し工夫して準備することで遊びの幅がぐんと広がった気がしたので、今後できる範囲で準備を工夫して学んだことを取り入れていけたら」「カナさんからの、こうしたら面白いんじゃない?というアドバイス(例:水の入った瓶を子どもに渡す際、スプーンで叩いたら音が変わるよ、飼育員ごっこの際、餌に見立てたお手玉をただ投げるだけじゃなくて箱でキャッチしたら面白いよなど)が大変勉強になりました。こうやって遊びを広げ、深めていくんだ、遊びを通して学びの種を蒔いていくんだなあとと思いました」



松岡公代先生の子育て相談会



中谷通恵さんの子育て講演会

6月、9月、3月に（年3回）実施

「子どもの心の発達のしかたを知ってあったか子育て」

11/9 @保健福祉センター

【協働運営】

参加するすべての人が協力し合い、みんなで場作りにかかわることを目指している。4ヶ月交代で3名のメンバーが「代表」を担当。代表はソーターとメンバーの掛け橋としての役割を持ち、月に1度の代表会議で活動内容や気になることを話し合っている。今期は、代表を中心となって夏祭りやハロウィンなど季節の行事を企画したり、日々の活動ではみんなで遊び場の準備から片付け、ふり返りを行い、絵本の読み聞かせなどを行った。担えるメンバーの不足により、1月から3月は代表不在であったものの、「代表さんがいない寂しい」「その時の代表さんの色が出ていてとてもいいと思う」など前向きな意見が聞かれ、代表制は今後も継続することになっている。



にじっこ総会で想いを聴き合う



絵本の読み聞かせ

— 「協働運営」に関する参加者の声 —

- ・自分たちで考えたり意見を出し合ったからこそ参加する楽しみや行くぞ！と言うやる気に繋がり、その姿を見ている子どもたちにも良い影響があり良い循環がでてあります。
- ・代表制：代表になった時、代表という言葉について頑張りすぎた。やってみて頑張りすぎないことが大事なことをよく学んだ。総会：参加できず残念。協働運営：参加するみんなで意見や想いを伝えられる環境はすごくいいと思います。
- ・気を使うのではなく、相手が心地よく過ごせるには・・を考え、ありがとうが自然と出る。回を重ねごとに深まる絆がすごく感じられた。
- ・代表をやるのは大変なこともありましたが、代表をすることでメンバーと深い話しができたり、仲を深めたりすることができたので、とても有意義な体験でした。無理のない範囲で、継続していけたらいいなと思います。
- ・その都度話し合って決めているのが素敵だと思いました。
- ・ふれいおんの物はどこからどこまでがにじっここの物なのかわからず、早く着いても準備が1人だと出来ないのが困っています。制作で使って良い物はどれなのか、教えて頂けると助かります。

- ・代表制、その時の代表さんの色が出ていて、とてもいいと思います。救命士さんを呼んでの救命講座、とても勉強になりました。みんなで作ったハロウィンのフォトスポットもすごく可愛くて素敵な写真が撮れたのもいい思い出です。
- ・代表制、いいと思います。代表さんが居ないときには、みんなが率先してふり返りを進行したり記録したり、柔軟に対応出来ていると感じました。
- ・“やってみたい”を形にし、違和感があることも声に出すと、否定ではなく解決へ向けての話しになることが素敵。
- ・代表制度は今後もあって良いと思います。代表さんが居ないとやっぱりなんだか寂しい感じがするのと、イベント毎の時に代表さんがいる方が話し合いや準備がスムーズだなと感じました。
- ・代表制は、今期に限らず、少し頑張り過ぎてしまう事もあったようですが、にじっこにグッと深く入り込むとても良いきっかけだと思います。代表になると、特技や良さをどんどん発揮できるので素晴らしい制度だと思います。その時のメンバーによって違うので、個性が出て面白い。
- ・サポーターとして自分のお子さんがいなくても活動にきてくれる皆さんのがいて、入ったばかりの私などに気を配って色々とお話してくれたりLINEもしていただけるのですごくありがたいです。抱っこしてくれたり、わからないことを聞けたり嬉しいなと思いつつ、ボランティアで謝礼金なども発生していないのかな？毎回負担が大きくなのかな？大丈夫なのかな？とも思ってました。



季節の飾り棚



「めでたいな会」で人形劇を披露

【その他】

— 活動全般を通して自由記述 —

- ・年齢を重ねると自分の考え方や見た目なども気になってきて、新しい遊び場や知り合いに心を開くまで時間がかかりますが、会員制だからこそ仲間の輪、信頼の輪、安心して参加することができます。また、その中でも色々な意見を出し合い学びもあることでいつも新鮮な気持ちでワクワク楽しむことができています。
- ・毎日孤独との戦いだった子育てが、にじっこに参加したことで楽しみながらできるものに変わりました。メンバーで子育ての悩みを共感しあったり、お互いの子どもの成長を喜びあったりできる事はとても心強く幸せでした。毎回温かく出迎えてくださる事務所の方々との会話の中にも子育てのヒントがたくさんで、本当はもっともっと色々な話を聞いてみたかったです。にじっこはただ子どもと遊ぶ場所ではなく、親にとっても子にとって多くの学びや気づきがある場所でした。この様な場所に出会えて本当に良かったです。ありがとうございました。
- ・なかなか参加をまとめてできなかったが、それでも居心地を場所を作り続けてくれて嬉しい。年少を機に、参加の機会が減っても関わっていきたいと思います。
- ・にじっこで定期的に会えるお友達がいることは、親子共々心の支えになっています。子どもの成長と一緒に見守ってくれる仲間がいることで、大変な時期も乗り越えることができました。子どもが癪を起こした時、子どもに寄り添ってくれるママがいて、イライラしている私にも寄り添ってくれるママがいて・・・親子共々みんなにケアしてもらいながら生きてます。ありがとうございました。
- ・にじっこに行くと娘が他のところに行った時よりのびのびしているように感じます。遊ぶ環境が整っていることと、大人たちの見守り方が温かいからではないかなと感じています。いつもありがとうございます。
- ・親子共々、にじっこであそび育ててもらったなと思っています。毎週2回、いつもの仲間に会えるのはとても大きなことで、緊張しやすい娘もにじっこなら自分らしく遊べています。物を取り合ったり、一緒に笑い合って時間をかけて子どもたちの中でも信頼関係がてきたなと思います。母達も慌しい乳幼児期と一緒に過ごし助け合ってきて、まさにこれを戦友と呼ぶのだなと・・・。にじっここの醍醐味は親子がそれぞれ違う親、子と遊び楽しむ。なかなかにじっこ以外では私の側から離れない娘ですが、ここでは「今、〇〇ちゃん（ママの名前）と遊んでるからママあっちいって！」と言われるほどです。前に体験に来たママが、「誰が誰のママかわからない」と言ってもらえたのは最高の褒め言葉だと思っています。本当に貴重な時間一緒に過ごしてくれたにじっこのみんな、ありがとう！いつも温かい言葉を



かけてくれて背中をおしてくれたサポーターのみなさん、にじっこが存続できるかをいつも努力で守っててくれた事務局の方にも感謝です。

- ・自分以外の同じ年くらいのお友達が同じ空間にいることで、刺激されるのかお家に帰ってきててもお友達がしていた遊びを真似してやってみたり、まだ言葉は出ないけど泣いてる子を見つけたら頭を撫でられるようになったり、できることが急に増えたような気がします。そして、思いやりの気持ちが芽生えてきたのかなと感心しています。これからも子供達がのびのび成長できるように、にじっこでの活動に積極的に参加できたらなと思っています。
- ・新しく入ってきたメンバーが馴染みやすい雰囲気作りをこれからも大切にしていって欲しいなと感じました。みんな最初は勇気を出してにじっこに入会してくると思うので。
- ・森に散歩に行くのが楽しい。私や夫以外の人と遊んでもらう機会がある。広くて、おもちゃが豊富、夏は木苺が食べられる。困った時に話せる、解決できる。大人が学ぶ場があり、ゆっくり話す時間がある。
- ・時折しか参加できないが、会うと声をかけてもらえてとても居心地が良い。素敵な仲間に囲まれて子ども達も安心して活動に参加しています。
- ・自分の子はもちろんのこと他の子どもの成長も見れるのが嬉しい。子ども同士のやりとりもすごく成長を感じます。その中で親同士の意見交換や学び合いを通して、親も成長させてもらっています。いつもありがとうございます。
- ・森の中での活動があったり、普段自宅では絶対やらない遊びを室内でも色々とできることや、なかなか参加できなくてないんですけど、お母さんたちの学び合い、聞きあいの場もあることがとてもいいなあと思います。0歳だとなかなか連れていいくのは大変ですが、1歳以上になったら保育園に行っていない子どもや親御さんにはとてもいいと思います。
- ・にじっこ大好き！！分からぬことや疑問に思ったことを、ネットで検索でなく信頼できる人につぐ聞けること。他の子の成長を、細かくそばで見られること。お互いにお互いの子供を見合えること。学び合いで色々な知識を得られること。仲間ができること！！子育てして行く上で、とても良い環境です♪



【サポートメンバーの想い】



スーパーバイザー
能登綾香(あやかちゃん)

娘と参加して1年、サポーターとして1年目、にじっことの関わりは立場が変わりながら2年目となりました。娘がにじっこを卒業となるときには「まだまだ学び足りない」という気持ちとにじっこに関わってみたいという気持ちからサポーターになり、遊んで学んで考えて実行するという充実したあっという間の1年でした。今は子どもとお母さんたちの居場所としてにじっこを守っていきたいなという思いでいっぱいです、想いがあるから続けられる活動だと感じています。活動の中で、私は特に「自然と子どもは本当に相性がよいな」と感じており森での活動がより楽しく充実していくように考え続けたいなと思っています。これからもよろしくお願いします。

私がにじっこメンバーになる前、ちょうどコロナの真っ只中でした。子どもと行く場所を探していたあの頃、私は孤独でした。にじっここの温かな場所を知り、卒業しても見守っていきたいなという想いで今も関わりを続けています。

にじっこサポーター
織田麻衣子(まいこちゃん)



スーパーバイザー
宮田真理子(まりちゃん)

“子どもの人権を尊重する子育て”を実践するプレイセンターに惹かれ、立ち上げ時から関わっています。スタッフの醍醐味は、色々な親子との出会いを楽しめること。あるメンバーが、「ここでは、〇〇ちゃん、と名前を呼んでもらえるのが嬉しい」と語ってくれました。母親である以前に、私たちは、自分だけの名前を持つ個人です。にじっこでは、大人も子どもも、ありのままの自分でいられ、お互いの個性を認め合い、面白がる、そんな文化が自然と根づいていてステキ☆最近、人数が減っていますが、この場を必要とする親子はきっといるはずなので、地道に広報していきます！

にじっこの魅力はたくさんありますが、私が今年ひそかに注目していたポイントは「メンバーにとって、我が子以外の『よその子』との関わり」です。にじっこでは、誰もが自然とよその子と遊んだりお世話をしたりするようになります。そのことが、どんなに子育てを楽しく豊かにしてくれるか！「子育て」という物語に登場人物は多い方が面白い。今、家族だけで子育てしている人がいたら、にじっこやぶれいおんの扉を開きに来てください。いつでもウェルカムです。



スーパーバイザー
嶋野奈津美(なっちゃん)



「めでたいな会」2025.3月



発行・編集

2025.3月発行

認定 NPO 法人 子どもと文化のひろば

ふれいおん・とかち

〒080-2470

北海道帯広市西20条南5丁目18-2

Tel/Fax 0155-36-0560 (平日 10時-15時)